

# 長生



平成27年 2月号

## 目 次

会長の言葉	日本長生医学会会長 柴田政宏
宗 教 編	
法 話	得勝寺本荘一治… 2
医 学 編	
腰痛について	日本長生医学会会長 柴田政宏… 4
坐骨神経痛の治療体験(2)	神奈川県 西田明生… 7
隨 想 編	
日々の贈もの	北海道 近藤三沙子… 13
長生で出会った素敵な友達	埼玉県 矢代公子… 14
技術と心	東京都毛里美穂子… 15
あなたの悩みは、誰かの悩み ~長生知恵袋~	… 17
長生会便り	
本部報告	… 18
本部案内	… 19
支部報告	… 20
平成27年度(第60期生)長生学園学生募集要項	… 21

日本長生医学会

## 会長の言葉

総本山長生寺管長 柴田政宏  
日本長生医学会会長

私共を取り巻く環境も昔と比べると大きく変化して参りました。

長生上人は、昭和初期に健康法として長生術を創始し、日本全国に普及活動され人々の為に貢献され続けられましたが、時代の変化に伴って、長生術を医学的な立場からの研究と、真宗長生派の法灯を正義先生に託すと同時に長生療術の発展を願っておられました。

整形外科の立場に立った正義先生は長生上人のご意志を受け継がれ、長生療術をより安全な現在の長生医学へと昇華されました。

医学の発達に伴い患者さんの意識も昔と比べると変わっております。長生医学の特徴とも言える一つの食い違いを矯正するにも種々の手技方法がございます。術者が得意とする方法のみではなく、患者さんの身体の状態に合わせた方法を選択しなければなりません。

医学の進歩がもたらされても、人間の体そのものが変わっている訳ではありませんが、加齢現象に伴う肉体的变化に沿った治療、骨粗鬆症、椎間板の加齢的変化を考慮した施術を行わなければなりません。

皆様もご存知の様に、50歳を越えると身長も変化して参ります。椎間板は正常の状態からいわゆる劣化した状態に成ってしまいます、この様な状態の時に、肩が異常に凝る、腰が痛むとの主訴で来院され、不適切な矯正動作で一気に症状の悪化がもたらされます。肋骨など骨折させてしまう事故に比べて、椎間板に損傷を与えてしまうと後遺障害がもたらされます。患者さんにとって施術前よりも身体的状態の悪化がもたらされれば、それは許し難い、忘れる事の出来ない事で有る事を肝に命じて頂きたいと思っております。

この患者さんは神経質だから矯正をしないという事ではなく、その患者さんに適切な施術法を選ぶ必要があるのです。

来年度よりの長生保険の賠償責任保険を含む長生医学会年会費の徴収が始まります。昨年度より840円増額に成っておりますが、お知らせの様に賠償責任保険の限度額を一億に増額させて頂く費用と成っておりますのでご理解いただきたく思っております。また未納になりますと、未保険状態と成ってしまいますのでお支払お忘れにならぬ様にお願いいたします。

合掌